

「確かな学力の定着を目指した授業改善の工夫」

～学ぶ楽しさや分かる喜びを味わえる効果的なPDCAサイクルを通して～

I 研究の内容

(1) 児童の教科及び生活習慣や学習習慣の状況把握と改善すべき課題の整理

- | | |
|-----------------|--------------|
| *全国学力学習状況調査（6年） | *Q-U検査（全学年） |
| *県学力把握調査（3・5年） | *生活実態アンケート調査 |
| *教育課程実施状況調査（6年） | |

⇒ 課題として

国語において、「読むこと」領域や漢字の読み書き、社会科において、資料の読み取りと活用能力に課題があること。生活実態については、就寝時刻や起床時刻が遅いことと、メディアへの接触時間が長いこと、さらには家庭学習が定着していないことに課題があることが分かる。

(2) 授業改善プランを取り入れた独自のCAPDサイクルの確立

C (チェック)	A (アクション)	P (プラン)	D (ドゥー)
<ul style="list-style-type: none"> ・生活実態アンケート調査 ・Q-U検査 ・NRT検査 ・山梨県学力把握調査 ・全国学力学習状況調査 <p>○教科及び生活習慣、学習習慣の状況把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活実態個人シートの作成 ・学習規律における指導内容の共有化 ・個別指導の充実 ・チャレンジタイム（朝学習）の新設 ・新聞コーナー設置 <p>○学習環境の整備・学習習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトメディアに関する学級活動の授業（全校） ・早寝早起きチャレンジ週間の企画 ・授業実践 ・授業改善のアイデアをもとにした授業改善プラン作成 <p>○授業改善ポイントの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「見通し」と「振り返り」を意識した日常の授業実践 ・早寝早起きチャレンジ週間の実施 ・アウトメディアチャレンジ週間の実施 <p>○授業実践</p>

(3) 家庭での学習のあり方・保護者との連携

- ・家庭学習の手引きについて各学年で検討し、今年度版を作成し配布。
- ・家庭学習時間の目安（学年×10分）の定着を目ざす。
- ・とりくみ方について、各クラスで指導。

(4) 学習規律や授業ルールの確認（環境面含む）

- めあては青、まとめはピンクで囲み、意識を促す。
- 教室前面には余計な掲示物は貼らない。前面の棚はカーテンで隠す。
- 『学びの達人』や『伝え合うみなみっこ』『姿勢ぺったん・ぴん・ぐう』の掲示。
- 多様な価値や考えに触れるような授業過程の工夫をする。考える時間を作る。
- できるだけ自分の考えを、言葉で書かせる活動を多く取り入れる。
- 小集団を利用した話し合い活動を仕組む。

(5) チャレンジタイムのとりくみ

☆朝学習の時間（8：20～8：35）の15分間をしっかりと確保する。

- 月-国語タイム〈漢字・スピーチ原稿作り・意味調べ・単語作り・文作り・NIE など〉
- 火-朝読書
- 水-算数タイム〈基礎的な四則演算・文章題対策・公式確認・フラッシュカード・ドリルなど〉
- 木-朝読書
- 金-チャレンジタイム〈5問10問確認テスト・スピーチ・群読など〉

(6) 学習会

- 「授業改善プラン実践事業の概要と社会科における授業改善のポイント」
講師 山梨県教育庁義務教育課 指導主事 深澤 秀興先生
- 「授業改善プラン実践事業の概要と国語科における授業改善のポイント」
講師 山梨県教育庁義務教育課 指導主事 重田 誠 先生

(7) 「見通し」と「振り返り」を意識した授業実践（11月19日授業研究会実施）

- | | | |
|-----------|--------------------|---------|
| 1. 第1学年3組 | 国語科「じどうしゃずかんをつくろう」 | 奥山 美恵教諭 |
| 2. 第4学年2組 | 国語科「アップとルーズで伝える」 | 小川 壮太教諭 |
| 3. 第5学年2組 | 社会科「工業の今と未来」 | 伊藤 淳司教諭 |

II 成果と課題

1 成果

- ・各種学力検査や生活実態調査をもとに本校の実態を分析し、課題を明らかにした上で研究領域を決定したり、とりくむべき改善のポイントを作成したりすることができた。また様々なとりくみにもそれを生かして計画実行することができた。
- ・一時間の授業の中で、「見通し」と「振り返り」を意識し、授業や板書の構造化について共通理解の上で研修を進めることができた。その中でも子どもたちの目線であてを立てたり、子どもたち自身がめあてに対する振り返りをしたりすることを確認できた。
- ・学習における課題を把握した上で、国語科では「読むこと」領域の改善プランを、社会科では「工業生産における資料活用」についての改善プランを作成することができた。
 - *低学年では、内容のだいたいをつかむ力を育成するため、「言葉のイメージを膨らませる」ことを改善のポイントとし、その手立てについて研究した。
 - *中学年では、内容を正確に読み取るために、「中心となる語をとらえたり、段落相互の関係を捉えたりすること」をポイントとした。
 - *高学年では、社会科の資料を読み取る活動を多く仕組み、それを活用して内容を理解できるよう授業を計画した。
- ・朝の学習タイムを新設し、教師が指導できる時間に基礎基本の定着を目指したとりくみを行うことができた。
- ・独自に生活実態調査を行い、生活の中からも課題を見つけ研究に生かすことができた。学習の定着と生活向上には大きな関わりがあり、早寝早起きやアウトメディアについてのとりくみを、家庭へ啓発するよい機会となった。

2 課題

- ・「読むこと」を研究する際、書く作業を伴う活動をしくむことが多く、「書くこと」の目標を意識せざるをえない。複合単元として位置づけ、両者の関連を図りながら研究していくこと。
- ・PDCA サイクルのアクションの内容を再度検討していくこと。
- ・構造化の中で、「振り返り」の手立てについて発達段階に応じた内容を模索していくこと。
- ・実態に応じた改善プランの見直しや新たな領域でのプランの作成を行うこと。
- ・研究組織の見直しをすること。

III 成果物

「べったん
びん
ぐう」
姿勢指導資料



(見直そう生活時間)

(ことばの
おくりもの)



(研究主任 小椋 規雄)